

明石市農業基本計画

—明石みんなの農業・新生プラン—

概要版



平成24（2012）年3月

明石市

明石市農業基本計画とは

■計画の目的■

明石市は平成8年に「明石市農業基本計画」を策定し、各種施策を推進してきましたが、近年、市民の食の安全・安心への関心の高まり、都市化の進展による生産環境の変化、農業者の高齢化・担い手不足、輸入農産物の増大など、農業を取り巻く環境は大きく変化し、厳しさを増しています。

このような状況を踏まえ、現計画を抜本的に見直し、農業が将来にわたって地域の産業として成り立ち、また持続的に「農」を活かしたまちづくりを進めることを目的に、新たに「明石市農業基本計画」を策定します。



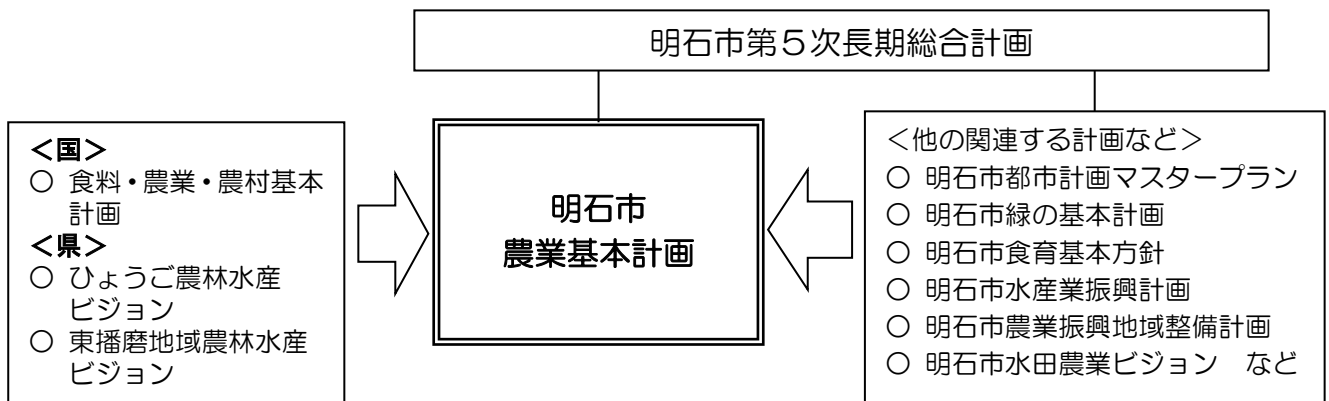
■計画の期間■

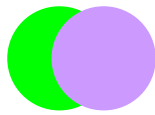
平成24年度～平成33年度の10年間とします。また、社会・経済情勢の変化を踏まえて、適宜、中間見直しを行います。

■計画の位置づけ■

本計画は、国の「食料・農業・農村基本計画」、兵庫県の「ひょうご農林水産ビジョン」及び「東播磨地域農林水産ビジョン」の内容を踏まえつつ、明石市がめざすまちづくりの基本方針を示した「明石市第5次長期総合計画」の農業分野の個別計画として、施策を具体化するものです。

また、都市計画分野などの関連行政計画やビジョン等と連携・協調を図りながら計画の推進にあたります。





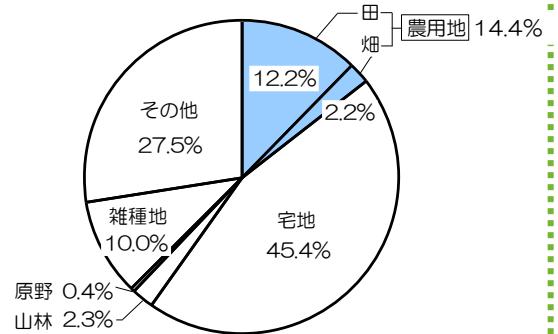
明石市の農業とは

■明石市農業の概要■

- 農用地は、市域面積の14%を占め、都市内の緑地としても重要な役割を果たしていますが、住宅地への転用がすすみ、減少傾向です。
- 農家戸数は1,188戸、減少傾向で農家の主な担い手の高齢化がすすんでいます。
- 農業生産面は、消費地に近いというメリットもあり、都市近郊型農業が展開されています。農業産出額は約13.6億円であり、そのうち野菜が約44%、米が約30%を占めています。キャベツの主産地であり、近年ではいちご、ブロッコリー、スイートコーン、軟弱野菜、レタス、いちじくなどが主要な作物となっています。
- 市内には、明石海峡を望む豊かな海と、107ヶ所のため池が分布するなど、「水」が大きな特徴となっています。

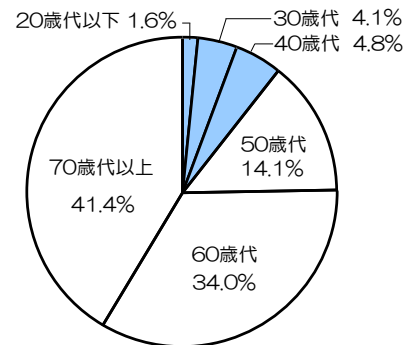
※基幹的農業従事者：自営農業に主として従事した世帯員のうち、ふだん仕事として主に農業に従事している者

図1 明石市の土地利用



出典：「平成 22 年明石市統計書」(明石市)

図2 農業の主な担い手の年齢構成 (基幹的農業従事者数 ※)



出典：「平成 22 年農業センサス」(農林水産省)

■市民の明石市農業に関する意向■

- 市民アンケート調査結果(※)によると、市民が明石産農産物として知っているものは、多い順に、「キャベツ」、「イチゴ」、「お米」、「ほうれん草」となっています。
- 明石産農産物の現在の入手先は、「JAの直売所」が約7割、「スーパーの明石産コーナー」が約5割となっています。今後も明石産農産物の消費を「増やしたい」市民は9割近くおり、そのためには、明石産であることの分かりやすさ、身近に購入できることが求められています。
- 今後、市内で取り組みたい「農」に関する活動としては、「野菜等の収穫体験」、「食や加工品を学ぶ(スクール)」などです。また、「食の名物づくり」や明石産の農産物を売りにした地産地消レストラン等も求められています。

※市内の直売所2ヶ所およびスーパーマーケット2ヶ所で合計800名の市民を対象に実施(平成22年度)

図3 今後の明石産農産物の消費意向

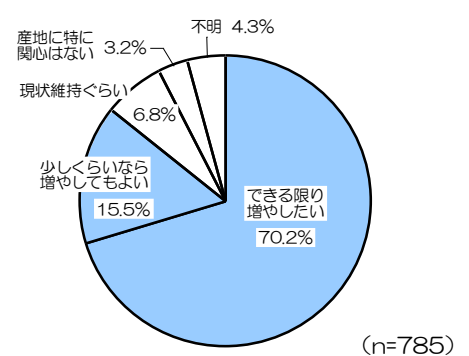
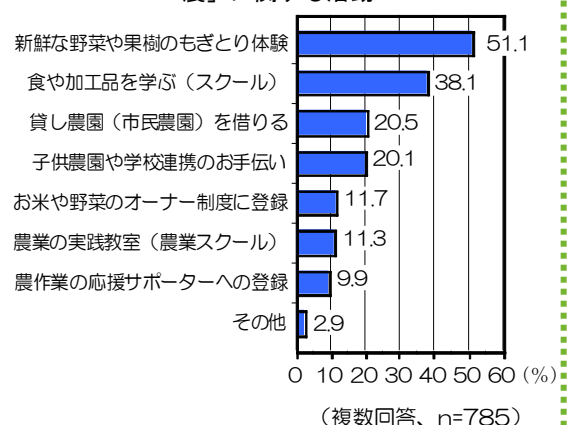


図4 今後、明石市で取り組みたい「農」に関する活動



明石市農業の将来像と6つの戦略

■□明石市農業の将来像□■

市民みんなが農業を支え 農業が元気になる
そして明石全体が豊かになる

■□基本的考え方□■

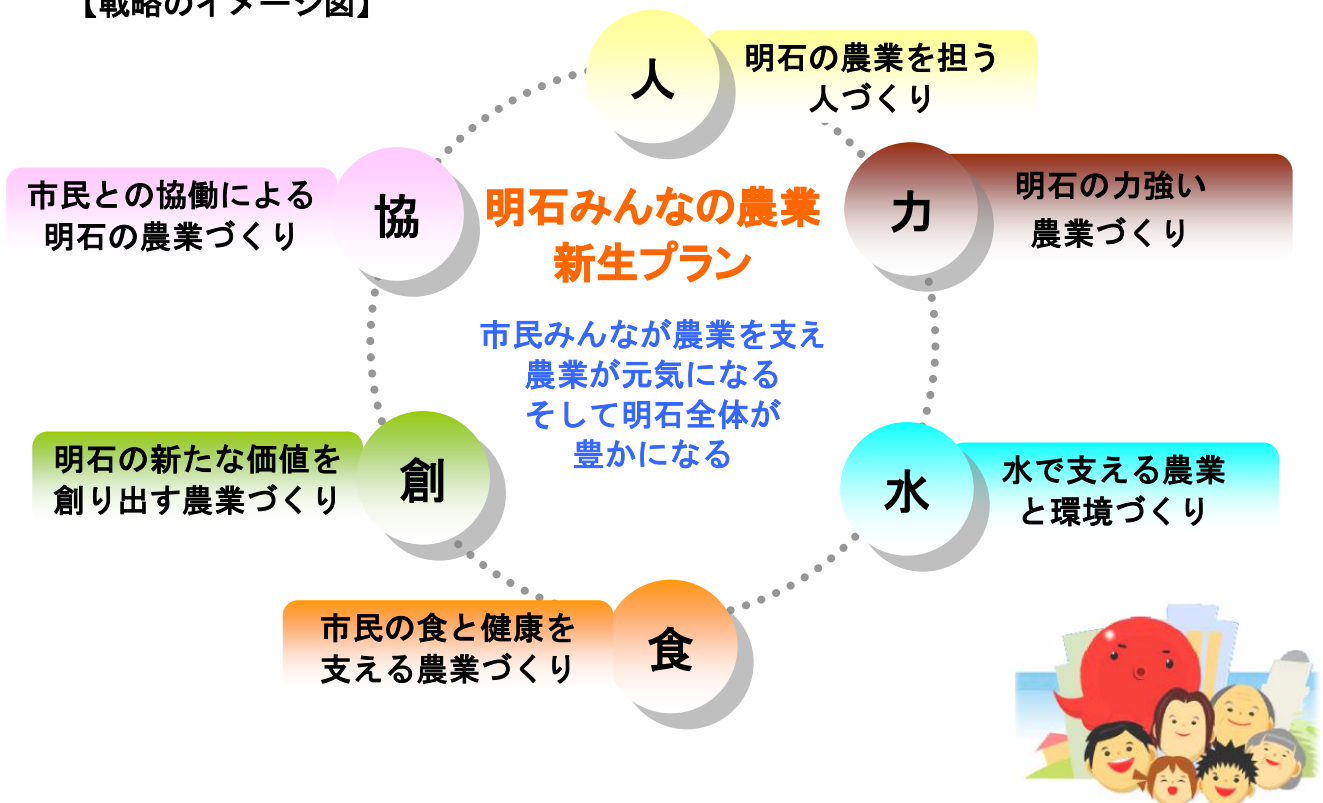
将来像の実現に向けて、現状と課題を分析した上で、下記の3つの基本的な考え方を設定します。

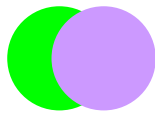
- I 農業を「魅力ある産業」とする
- II 「水」をはじめとした「環境」を重視する
- III 「市民との協働」により明石市全体を豊かにする

■□6つの戦略□■

基本的な考え方を踏まえ、以下に示す6つの戦略を設定します。

【戦略のイメージ図】





6つの戦略における具体的な施策



1. 明石の農業の担い手を育てようプロジェクト —農業技術の伝承・育成・開発—

関係する戦略

人 力 水 食 創 協

■ 趣旨

農業振興の基本は、確かな技術を持った元気な担い手がいることです。明石で培われた農業技術を活かしつつ、その伝承や育成、新たな技術の開発を推進します。

■ 内容

- ① 認定農業者等の経営力を高めるための研修会の開催
- ② 新規就農者等を増やすための説明会・研修会等の開催
- ③ 農業技術向上のための助成

■ 実施体制

- 主体：担い手協議会、園芸連合会
- 連携・支援：JA、認定農業者、県就農支援センター



2. 優良農地を活用しようプロジェクト —ほ場整備地区の総合的な営農支援—

関係する戦略

人 力 水 食 創 協

■ 趣旨

ほ場整備地区は、農地や水路、農道など営農基盤が整った優良農地であり、その優良農地を、明石市の農業のモデルとして有効活用することを促進します。

■ 内容

- ① 農地の利用集積の推進
- ② 営農組合や認定農業者等担い手の経営の支援

■ 実施体制

- 主体：市、農業委員会、明石市農業再生協議会
- 連携・支援：県普及センター、JA、営農組合、農会



重点プロジェクト

※重点プロジェクト

- ・他の施策に対する波及効果が高いもの、取り組みが分野横断的であり、総合的な推進が必要なもの
- ・当面3～5年程度重点的に取り組む

4. 明石の野菜を食べよう・発信しようプロジェクト —地産地消と高付加価値化—

関係する戦略

人 力 水 食 創 協

■ 趣旨

明石市の農業振興を図るためには、明石産農産物の市民による消費拡大と、付加価値の高い農産物や加工品づくりが必要です。そのための地産地消を高める取組と、対外的に発信できる商品開発や販路開拓等の支援を行います。

■ 内容

- ① 明石の野菜の高付加価値化と販路拡大の促進
- ② 地産地消の促進

■ 実施体制

- 主体：市、JA、県、明石市地産地消推進実行委員会、園芸連合会、
- 連携・支援：明石市地方公設卸売市場、わはは塾、流通・飲食事業者、明石商工会議所、消費者団体、漁業協同組合



5. 市民が農を楽しみ・支えようプロジェクト —観光農園・市民農園・コミュニティ農園—

関係する戦略

人 力 水 食 創 協

■ 趣旨

本計画の将来像を実現するためには、市民と農業との具体的な接点をつくり、できる限り市民に農業への関心を持ってもらうことのために、観光農園、市民農園、コミュニティ農園を増やしていきます。

■ 内容

- ① 観光農園の開設促進
- ② 市民農園の開設促進
- ③ コミュニティ農園の促進
- ④ 市民と農業者との交流の促進

■ 実施体制

- 主体：市、JA
- 連携・支援：農会、自治会、営農組合



3. 明石の里と海をつなごうプロジェクト —水の循環でため池・農地等と海を結ぶ—

関係する戦略

人 力 水 食 創 協

■ 趣旨

市内には、明石海峡を望む豊かな海と、多くのため池があるなど、「水」が大きな特徴です。健全な農業を営むことにより、里と海をつなぐ水循環を守り、活用します。

■ 内容

- ① ため池協議会の取組の活性化
- ② 里と海との水循環を活かした明石産農水産物の高付加価値化
- ③ 水産物・農産物残渣の農地への有効活用の研究

■ 実施体制

- 主体：市、県、ため池協議会、明石市漁業組合連合会
- 連携・支援：いなみ野ため池ミュージアム、農会（水利組合）、自治会



6. 明石の食と農で子どもを育てようプロジェクト —学校農園・食育・環境学習—

関係する戦略

人 力 水 食 創 協

■ 趣旨

将来を担う子どもたちへ食と農のすばらしさや大切さについて学んでもらうために、身近にある明石の農産物や農地などを、貴重な教材として活用し、子どもたちが学べる機会を増やしていきます。

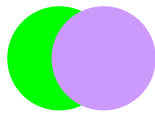
■ 内容

- ① 小学校等と地域が連携した食と農の学習促進
- ② 日本型食生活の推進

■ 実施体制

- 主体：市、教育委員会
- 連携・支援：農会、自治会、ため池協議会、明石市食育推進会議、明石市地産地消推進実行委員会





主な明石産農産物の紹介

◆水稲◆

主な品種は秋早くに新米を提供できる「あきたこまち」「キヌヒカリ」と味にこだわった「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」。直売所やJA販売の地場産米は人気が高くなっています。

夏の田んぼや水路はおたまじゃくし、メダカ、やご等の多様な生物の貴重なすみかとなっています。

- 主な生産地：市内全域
- 収穫時期：9月～10月



◆軟弱野菜◆

40年ほど前からほうれんそう、菊菜、ねぎ等をビニールハウスを活かしながら周年的に栽培してきました。

最近では小松菜、ミズナが明石の主力品目になってきています。地場市場を中心に鮮度と品質にこだわり、消費者に好まれる新しい品種にも敏感に対応しており、地場物が並ぶスーパーや直売所ではシャキッとしたりみずみずしさが売りとなっています。

- 主な生産地：市内全域
- 収穫時期：9月～10月



◆キャベツ◆

県下第3位の主産地。明石の野菜と言えばキャベツであり、戦後まもなく栽培が始まりました。秋・冬・春・初夏にわたって、その時々が一番味の良い品種をリレー栽培するなど、美味しいキャベツを食べてもらいたいという気持ちは県下一のこだわりを持っています。近年は、高齢化に対応して機械化が進められています。

- 主な生産地：大久保町、魚住町
- 収穫時期：10月～6月



◆ブロッコリー◆

一時は輸入物におされて栽培が少なくなってきましたが、“安心の国内産”として生産が復活。鮮度と美味しさが特徴で、地場産として根強い評価を得ています。ほんのり甘みがあって本当に美味。

- 主な生産地：魚住町、二見町
- 収穫時期：10月～5月

